図書館報 ビブリオテカー

βιβλιοθήκη

「βιβλιοθήκη」はギリシャ語で図書館のことです。

第 42 号
2021年2月24日発行
北陸学院高等学校
図書委員会
〒920-8563 金沢市飛梅町1-10
TEL (076) 221-1944
印刷所 ハヤシ印刷紙工株式会社

図書委員長になって私は、いろいろな活動をしてきました。やりたかったことは他にもあったのですが、新型コロナウイルスの影響により、できなくなってしまったのが残念でした。特にミッション祭では、企画していた内容ができませんでした。新型コロナウイルスの感染に気をつけながら、今年度できた活動は主に三つです。

一つ目は「学級文庫」です。「学級文庫」では、各クラスの図書委員が、図書館から5冊の本を選んで教室に設置し、3週間ごとに入れ替えて管理をしました。この活動の目的は、委員会の年間目標「楽しく落ち着いた時間を作る」の実現でした。実際に、多くの生徒が本を身近に感じ、興味をもってくれたと思います。委員たちの選書に際して、私が感心したのは、絵本を選んでいたクラスがあったことです。教室に、幼い頃に読んだ懐かしい絵本を置くことで、読書することの楽しさを思い出してもらう成果もありました。

二つ目は「おすすめの本」です。「おすすめの本」では、委員全員が、図書館にある本から推薦する本を一冊選んで200字程度の紹介文を書きました。委員が書いた紹介文は、前期・後期それぞれ5回の合計10回『図書委員おすすめの本』として発行しました。また、新任の先生方に協力していただいて、『先生おすすめの本』も6回発行しました。いつも一緒にいる生徒や先生からの「おすすめの本」の紹介は、「学級文庫」と同じように、本に興味をもって読書するきっかけになったと思います。

三つ目の活動は「選書会」です。今年の選書会は、2年生図書委員の希望者が参加しました。私を含め、参加した委員が協力して、みんなに読んでもらえるような魅力ある本を30冊選びました。映像化された作品や本屋大賞受賞作品などの気軽に読める人気小説から、少しページ数のある専門的な本まで、バラエティに富んだ内容になることを意識しました。この「選書会」は、本屋さんをゆっくり見てまわることができて楽しい時間となりました。

これら三つの活動を通して「楽しく落ち着いた時間を作る」という年間目標は達成できたと感じています。クラス図書委員のみなさんと協力して、無事に活動ができたことに感謝です。図書委員長としての一年間は大変貴重な経験となりました。

（205H　山田　修輔）

図書委員おすすめの本

「図書委員おすすめの本」を発行し、皆さんにイチオシ本を読んでもらえるよう展示も行いました。その中から3名のコメントを紹介します。

『今、世界はあぶないのか？差別と偏見』　L・スピルズベリー

この本は最近、ニュースでよくとりあげられている、黒人差別について書かれています。日本人の私から見ると、黒人は少し怖いと思ってしまう時がありました。別に何かされた訳でもないのに、悪いように考えるのはよくないことです。だから、私も黒人に対しても、他の人たちと同じように優しく接したいと思いました。ぜひ皆さんにも、この本を読んでほしいです。そして、少しでもこの世界から差別が消えてほしいです。

（101H　田畑　美空）

『アンネの日記』　A・フランク

『アンネの日記』を読むと、アンネ・フランクが私たちと変わりない、普通の少女であったことがわかります。恋をしたり親に反抗したり、将来の夢を思い描いたりと、いつ強制収容所に送られてもおかしくない隠れ家での生活の中でも、自分を見失わず前向きでいたアンネの生き方が強く心に残ります。また、戦争を、私達とあまり変わらない歳の少女の視点から感じられるので、戦争を知らない私達が戦争を知るために適した本だと思います。

（208H　艸田　一葉）

『10年後、君に仕事はあるのか？』　藤原 和博

私達は今、変化の時代に生きています。そうなると不安になってくるのが、これから私達はどんな未来を歩んでいくのだろう、ということです。この本では、私達若い世代がこの時代を生きていくためにどのような力が必要であるかをとても具体的に説明しています。この本を読んで、私は今、とても大事な時期にいることを強く自覚することができましたし、自分がこれからどうしていけば良いかが、より鮮明に見えた気がします。

（304H　辻本　大知）

授業利用 科学道100冊

生徒が書いた「オススメ本紹介カード」

今年度の1年生から「サイエンスQuest」という探究型学習を始めました。物理基礎・生物基礎の授業の一環で、図書館にある「科学道100冊」（※本校にはシリーズ合わせて約400冊の蔵書がある）を利用して、本の内容や自分が考えたことを整理して他者に伝えるため、「オススメ本紹介カード」を書いたり、「ビブリオバトル」を行ったりしています。「科学道100冊」とは、科学者のものの見方や考え方を知り、身のまわりのものに疑問・興味をもてるような本を届ける理化学研究所の事業です。それを本校独自のものにアレンジし、自ら課題を発見し、その課題を解決するためのプロセスを体験しながら、スキルを習得していくことを目指しています。グローバル化、AI化していく社会の中で、高校生のうちから授業などを通して、そのスキルを身につけていくことが求められています。1年生の皆さんにはこの活動を足がかりとして、2年生、3年生になってもそのスキルを磨いていってほしいと思います。

（理科担当　岡崎　裕一）

「ビブリオバトル」の様子

図書館報告

〈テーマによる展示〉

6月　図書館へようこそ（絵本）
7月　「校内読書感想文コンクール」課題図書
　　ルネサンス
9月　新聞とは
10月　発想を拡げる
11月　クリスマス絵本
12月　牛乳の本
1月　大切な礼儀
2月　大切な礼儀

〈教員による推薦図書紹介〉

7月　阿部　俊　先生
9月　越川　旭　先生
10月　三本松里央　先生
11月　加藤えり菜　先生
12月　前　佳子　先生
2月　大村　広樹　先生

〈読書週間スタンプラリー〉

10月19日(月)から4週間「読書スタンプラリー」を実施しました。スタンプを集めた利用者のべ36名には、ささやかなプレゼントをさしあげました。

（司書　高井　章子）

図書館利用統計 6～12月

〈個人貸出BEST5〉

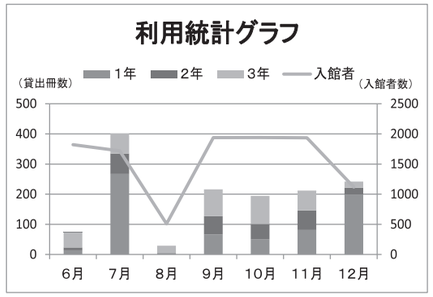
1位　303H　北村　心宙
2位　307H　大成　志織　50冊
3位　202H　北中　元規　39冊
4位　308H　荒木　桃子　28冊
5位　106H　那谷　桃子　23冊
　　304H　高岩　佑輔　23冊

〈貸出作家BEST3〉

1位　住野　よる
2位　J・K・ローリング
3位　時雨沢　恵一

〈貸出作品BEST3〉

1位　はたらく細胞　清水　茜
2位　はたらく細菌　吉田　はるゆき
3位　はじめアルゴリズム　三原　和人



先生から

今年、皆さんは新しいことを体験しましたか？もしかしたら「なかなか難しかった…、だって、色々制限されていたし…」という思いを持っている人も多いかもしれません。

確かに今年度はこれまでにない大変な経験をした年となりました。コロナウイルスの流行により私たちの生活が大きく変化し、これまで当たり前にできていたことができなくなりました。

自粛生活も初めてのことでした。そんな行動が制限される中、皆さんは何を行っていましたか？中には「何もできなかった…」という人もいるかもしれませんが、今まで当たり前にできていたことができなくなった時、何とか別の物で代用した人も多いのではないでしょうか。なかなか身動きが取れない現在、かわりに色々経験させてくれる存在、それがまさに本という存在です。私たちは自分の人生以外を経験することはできません。しかし、疑似体験することができます。自分の周り以外の世界を広げることができます。時には日本から出なくても、他の外国のことを体験することができます。時代を超えることだって可能です。そんな自分の知らない世界を体験したように知ることができるのが本という存在です。

今年度の図書委員会は、そんな素敵な経験をさせてくれる本を、より身近なものにしてもらうため、図書館を利用してもらいたいという思いのもと活動してきました。図書委員長をはじめ、図書委員会の皆さんに協力していただき、それぞれが今できることに焦点を当てて工夫して取り組みました。

活字離れが、本離れが進む昨今、行動を制限されてしまう今だからこそ、本という媒体を使って、色々な体験をして欲しいと思います。ぜひ、これを機会に、文字がいっぱいと、嫌厭せず、そのページをめくってみてください。きっとそこから新しい世界が広がると思います。

（図書委員会担当　下村　舞）

貸出利用冊数	2018年度	2019年度	2020年度
高校1年	190	306	683
高校2年	285	297	275
高校3年	174	622	423
中学1年	354	578	131
中学2年	98	125	295
中学3年	17	13	103
教職員等	437	365	331
合計	1,555	2,306	2,241

編集後記

委員会活動に協力してくれた皆さん、本当にありがとうございました。

図書委員会
委員長　205H　山田　修輔
副委員長　204H　吉田　咲来
　　206H　松井　唯衣

図書委員になって思ったこと

各学年から3名の委員に図書委員会活動を振り返ってもらいました。

私は小・中学校で図書委員をしていました。私は昔から本が大好きで、いろんなジャンルのものを読んでいました。図書委員の仕事は本に囲まれて作業をしたり、オススメの本を紹介したりと、私にとって楽しい仕事です。最近では図書館を利用する生徒が減っているように感じます。そのため学級文庫の本を選ぶ時に工夫しようと思いました。どんな工夫かは今も考え中ですが、その工夫で来年はもっと利用者が増えてほしいです。（106H 清原 沙希）

私は今年度前後期とも図書委員でした。選書会やおすすめの本紹介、学級文庫貸出の仕事があり、学級文庫の本も私たちが選びました。本選びでは季節や進路、教科に関わる図書や、自分目線で興味を持ったり面白そうだと思ったりした読み物を揃えました。みんなに少しでも学級文庫を手にとって読んでほしいという思いでした。

図書館は静かで落ち着く空間です。勉強のために来る人もいます。毎月新しい本が入るので多くの人に利用してもらいたいです。（202H 北中 元規）

図書委員の活動では、POP作りやおすすめの本紹介、学級文庫の設置などをしました。学級文庫は、3年生は受験で忙しく本を手に取ってもらうのが難しかったですが、勉強に役立ちそうな本や息抜きになりそうな本などを選ぶのを心がけました。少しでも読書に興味を持ってもらえるように活動できて、楽しかったです。また、私自身も図書委員になったことで掲示物をよく見るようになり、先生のおすすめの本を借りたりしました。（308H 荒木 桃子）

学級文庫

「学級文庫」で最初に考えたことは、クラスのみんなが親しみやすい本を選ぶことでした。そうして悩んでいると、誰もが読んだことのある絵本がいい！と、ひらめきました。その結果、たくさんの生徒が楽しそうに読んでくれました。みんなが絵本を手にとる教室の様子を見て、選んでよかったと嬉しくなりました。次回からも、図書館の中をまわりながら、みんなが喜んでくれる本を考えて「学級文庫」に選びました。（206H 松井 唯衣）

ミッション祭

8月28日（金）

ミッション祭は2日目が中止と、予定が変更になり、図書館で「おすすめの本」のPOP展示をしました。

おすすめ本がズラリ！

選書会

10月27日（火）

うつのみや書店で選書会を行いました。図書委員有志が蔵書にしたい本を選びました。

私は選書会に行って、再び本の魅力を感じることができました。本にハマった時期もありましたが、最近はあまり読まなくなっていたのです。選書会で久しぶりにたくさんの本を見て、やっぱり本は良いなあと思いました。

私は、以前から興味のあった本やベストセラー、高校生になってから読んでおもしろかった本を選びました。その中でも、山田悠介は自分が好きな作家なので、ぜひ読んでほしいです。そして、みなさんも時間があれば本屋に行って、いろんな本を手に取ってみてください。そこで興味が湧く本と出会い、貴重な体験ができるかもしれません。（209H 北川 信太郎）

10月27日、図書委員会の人たちと、図書館に入れる本を選びに行きました。普段あまり多く本を買って読む機会がないので、いつもと違った感じでワクワクしました。生徒からの事前リクエストも少なかったので、自分の気になる本や読んでみたいと思った本を探しました。本屋の中をいろいろまわっていると、聞いたことがあるタイトルを見つけて、どれにするかとても悩みました。本屋には今まで行かなかったようなコーナーがあり、多くのお客さんが熱心に本を選んでいました。

この選書会に参加して、見たこともないタイトルの本を多く発見できました。改めて本にはいろいろなジャンルがあり、幅広い年代に愛されているなと実感しました。趣味や勉強など、これから自分も進んで本を読んでいきたいと思いました。（209H 森 亮斗）

購入図書リスト

『アンと愛情』　坂木　司
『IT』1～4巻
『ミスト』　スティーヴン・キング
『子どもの自己肯定感が高まる天使の口ぐせ』　白崎 あゆみ
『桜のような僕の恋人』　宇山　佳佑
『スイッチを押すとき』　山田　悠介
『そして、バトンは渡された』　瀬尾　まいこ
『超高速！参勤交代』　土橋　章宏
『ツナグ』　辻村　深月
『〈時間〉のかたち』　伊藤　徹
『半沢直樹』1～4巻　池井戸　潤
『火花』　又吉　直樹
『僕の涙がいつか桜の雨になる』　犀川　みい
『邪馬台国はどこですか？』　鯨　統一郎
『夜に駆ける』　YOASOBI
『ルパンの星』　横関　大
『わたしの美しい庭』　凪良　ゆう

第44回 校内読書感想文コンクール 最優秀賞

キャパとゲルダ ふたりの戦場カメラマン ―ふたりは失敗したのか―

308H　荒木　桃子

人は色んなものを写真に撮る。美しい風景や、美味しそうな食べ物、家族や友人の笑顔など、あらゆる瞬間をカメラに収める。どちらかといえば、悲しくて暗い出来事より、楽しくて明るい瞬間を撮ることの方が多いのではないだろうか。けれども、スペインで激しい戦争が起こった時代に、キャパとタローは「戦争」の写真を撮っていた。しかも、自ら進んでより激しい戦いを撮りに行っていたという。

戦争で誰が戦っているか、と考えると、一番初めに思い付くのは兵士だ。そしてどうやって戦うかというと、銃などの武器をイメージする。戦争には様々な人が関わっているが、私の中での戦争はそんな印象が強い。ところがキャパとタローは、カメラを武器として写真によって戦争を戦っていた。二人にとって戦争の写真を撮って売ることは、収入を得るために必要なことでもあったが、同時に、写真を世の中に送り出し人々にスペインの現状を知ってもらうことでもあった。それはつまりファシズムとの戦いを、戦争の恐ろしさを人々に伝え、争いがこれ以上広がってほしくないという意図があったのだろう。どれだけ大きな正義や大義があっても、戦火の中へ自ら飛び込むのは容易ではない。二人は実際に、戦いの中で写真を撮ることに恐れを感じていた。それでも、人々が逃げ惑い爆弾が降る中で、二人はシャッターを切り続けた。いつ死ぬか分からない恐怖に、彼らを打ち勝たせたものとは一体何だったのだろう。戦況を伝えなければならないという使命感か、写真を撮ることで戦火の広がりを止めることができるかもしれないという希望か、それとも二人の心に何にも代え難い情熱があったからなのか。きっと要因は一つではなく、多くのものが二人を突き動かす原動力となっていただろう。仮にそれらを全部かき集めて私に移し替えたとしても、私は二人のように戦うことはできないと思う。キャパとタローは、物理的に敵を倒すことはなくても、当時戦っていた人々の中でも最も勇ましい兵士の二人だっただろう。

キャパとタローが写真を撮っているその時、スペインには自分達の信じる未来を勝ち取るために戦うべく、多くの義勇兵が集まっていた。ファシズムの支配が世界へ広がるのを食い止めなければならないという意志をもって、国や民族に関係なく、同じ目的のためにスペインに集い、戦った。国家が義勇軍を自国のため利用した側面もあったが、集った人々はそれぞれ希望を抱いて、自分達の望む未来のために自分の手で戦った。世界が危機に瀕しているといっても、自分自身が戦おうとするのは、簡単ではないと思う。皆できるだけ、自分が傷つかなくてすむように、他人の力に頼りがちだ。志願して、身を削ってでも戦うことを選ぶのは並大抵のことではない。

また、当時彼らのような人々がいたことは、今の人類にとって希望だと思う。彼らの存在は、私たちは国籍や民族が違っても、団結し戦うことができることを示している。今の私たちは自国や個人の利益を求めがちで、協力より分断が進んでいるように思える。環境問題や人権問題など、全員で解決しなければならない多くの問題を抱えている今こそ、我々は団結し共に戦わなければいけないはずだ。自分の手で未来を掴み取ろうと力を合わせた彼らのことを思い起こし、一丸とならねばならない時が来ている。

スペイン内戦は最終的に、反乱軍の勝利で終結する。そして戦いは世界へと拡大し第二次世界大戦が始まった。キャパたちは、それを止めたくて活動していたが、願いは叶わなかった。「彼らは失敗した、とも言える」という小見出しが、本にはある。

成功か失敗かでいえば、キャパたちは失敗したといえるだろう。各国を、スペイン内戦に介入させることはできなかったのだから。だが彼らの失敗は、世の中にあるありふれた成功よりもずっと大きな価値があっただろう。なぜなら、キャパとタローの物語は私たちに大きな希望や勇気を与えてくれたからだ。それに結果だけがこの世のすべてではない。どうしても過程より結果が重視されてしまうが、写真を撮り続けたキャパたちの存在に多くの人々が励まされたことだろう。今の時代の我々にとっても、彼らの写真は戦争の勝ち負けの結果では得られない宝物のはずだ。キャパとタローは戦争の中で命を落とし、戦火の広がりは止められなかったが、二人の人生は成功か失敗かでは言い表せない大切な意味のあるものだった。キャパとタローが撮った写真が、彼らの存在の意義を物語っている。

校内読書感想文コンクール 審査結果

夏休みの宿題で提出された読書感想文8398作品を「校内読書感想文コンクール」として審査した結果を報告します。

☆最優秀賞

『キャパとゲルダ　ふたりの戦場カメラマン
―ふたりは失敗したのか―』
308H 荒木　桃子

『コンビニ人間
―自分という人間―』
208H 艸田　一葉

☆優秀賞

『廉太郎ノオト
―私が出来ること―』
106H 那谷　桃子

『コンビニ人間を読んで』
209H ウッドハムズ小津　仁花

『きっと誰かが祈ってる
―世界を知るということ―』
308H 一丸　眞音

☆優良賞

『それをお金で買いますか 市場主義の限界
―お金で買えるもの、お金で買えないもの、お金で買うべきでないもの―』
110H 佐藤　咲耶

『想像ラジオ』108H 吉田　咲優

『きっと誰かが祈ってる』
209H 中西　聖実

☆佳作

『旅のラゴス』103H 南保　春斗

『そして、バトンは渡された』
205H 中村　紗貴

『想像ラジオ』201H 岩木　まき

『そして、バトンは渡された』
301H 大竹　菜月

『舟を編む』305H 下　千尋

『旅のラゴス』308H 米永　さくら

なお、荒木さん、那谷さん（課題図書）、艸田さん、ウッドハムズ小津さん、一丸さん（自由図書）の作品が、石川県読書感想文コンクールの本校代表に選出されました。（国語科）